

# インナー大会プレゼン部門 2018 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) ブンキョウガクインダイガク	フリガナ) ケイエイガクブ	フリガナ) ニツタゼミ
文京学院大学	経営学部	新田ゼミ

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) エーチーム	フリガナ) ツチダエリカ	5	無	無
A チーム	土田恵里花			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

Microsoft Office PowerPoint 2016、マイク 2 本

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

## 研究テーマ (発表タイトル)

大学生に対する自転車教育の普及に向けて ~今までにない新しい教育を~

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

### 1. 研究概要 (目的・狙いなど)

本研究は、大学生に最適な自転車教育を普及することを目的とする。

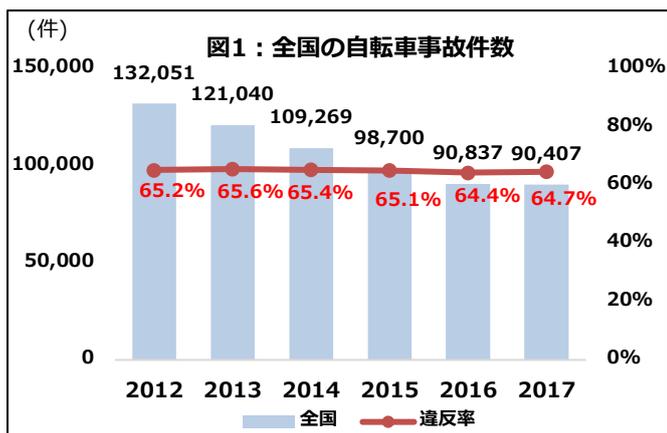
日常生活で便利に利用されている自転車であるが、毎年多くの自転車事故が起こっている。今回の研究対象者である大学生は交通ルール (信号、車道走行、安全確認、一時停止、交差点安全進行等) の認知率が高いにもかかわらず、遵守率が低く、その大学生に対しての自転車教育が不十分であることが明らかとなった。そこで、当事者でもある私たち学生自身が、自ら大学や企業、団体等にアプローチをかけ、大学生への自転車教育を普及していくことで、自転車事故の減少を目指す。

### 2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

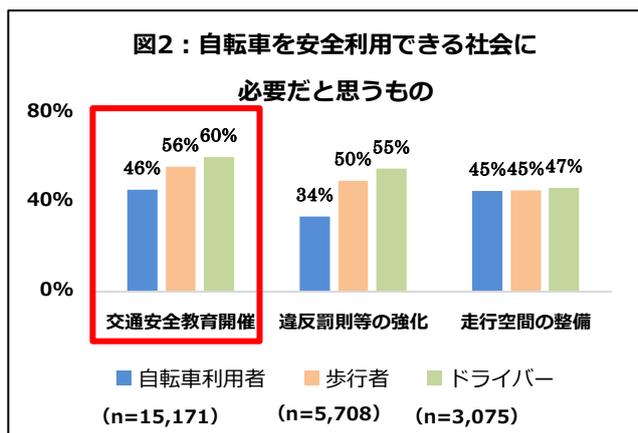
2017年5月に「自転車活用推進法」が施行され、国全体で自転車活用を積極的に推進している。図1の警察庁によると、全国で自転車事故の発生件数は減少傾向にあるものの、交通ルールを違反して発生した事故件数の割合は毎年約60%となっており常に横ばいである。交通ルールを違反してしまう理由として、危険という認識が低い、自分が安全なら他人は関係ないという認識があるなどが挙げられる。

図2の一般社団法人自転車産業振興協会によると、社会では自転車を安全に利用するために「交通安全教育の開催」が最も求められているということが分かった。警視庁へのヒアリングでも、交通安全に対して一人ひとりの意識が大切なため、教育は

重要であると述べていた。また、改正道路交通法により 2015 年 6 月 1 日から、交通ルール違反を繰り返した自転車運転者に対して講習の受講命令等が新設され、法律でも教育の場を設けている。



出所：警察庁(2018)

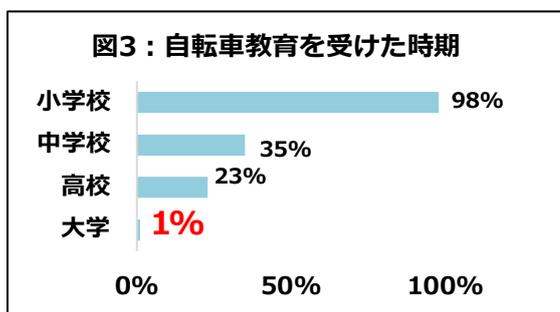


出所：一般財団法人自転車産業振興協会 (2016)

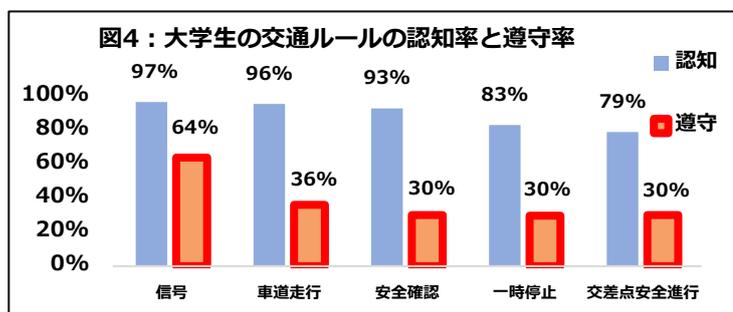
### 3. 研究テーマの課題

本研究テーマの課題は、交通ルールの遵守率が低い大学生に自転車交通安全教育が行われていないことである。私達は独自に全国の 10 代以上 180 名にインタビューとアンケート調査(実施期間：9 月 12 日～9 月 17 日)を実施した。その結果、大学で自転車交通安全教育を受けたことがある人の割合は 1%であった(図 3)。さらに別のアンケート調査(実施期間：7 月 21 日～8 月 1 日)の結果から、大学生は交通ルールの認知率が高いが遵守率は低いということが分かった(図 4)。つまり、大学生は交通ルールの遵守率が低い、自転車交通安全教育は行われていないというのが現状である。

そこで私達は、自転車交通安全教育が不足している大学生に教育を行うことで交通ルールの遵守率を向上させ、安全な社会を目指す。



出所：独自アンケートより作成(n=180)



出所：独自アンケートより作成(n=314)

### 4. 課題解決策 (新たなビジネスモデル・理論など)

上記の課題を解決させるために、従来の教育を精査し、その結果疑似体験型の中の VR が大学生に最適と考え、自転車 VR を用いた自転車交通安全教育を提案する。

自転車教育は、主に講義、実技、疑似体験がある。実際に私たちは 4 ヶ所 5 回体験した。実技と疑似体験は参加体験型と分類される。学習において、参加体験型は有効とされている。その理由は、「自ら能動的に行動できる期待感」「楽しく学ぶことができる」「学習意欲が高まりやすい」からである。

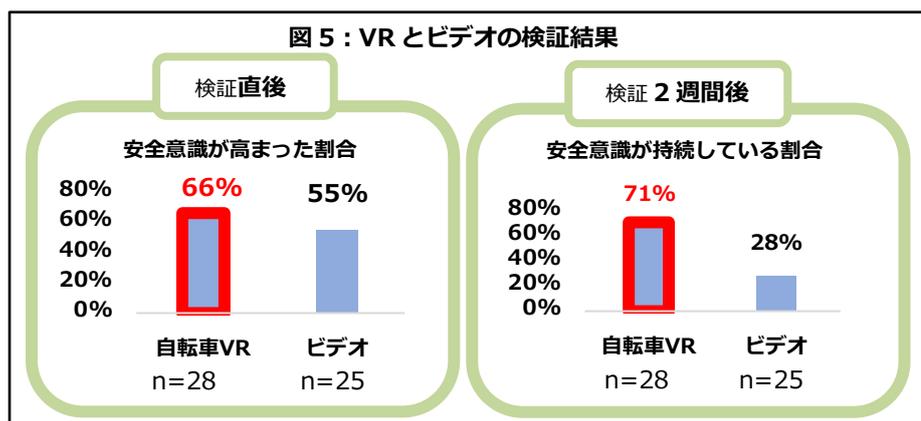
私達の体験からも講義より参加体験型が興味を持って、また参加体験型の中でも VR が新鮮で強く記憶に残った。

VR とは、コンピュータの作り出す仮想の空間を現実であるかのように知覚させることである。また、VR は視野を自由に動かせるため、運動主体感を感じやすい。VR はスポーツ、ビジネス、医療、教育と多くの場面で使われており、近年様々な分野で注目されている。また、北京ブルーフォーカス E コマース(2016)による天文物理学を題材にした VR 教育の研究から、VR は記憶に残りやすく、持続性があることが明らかになった。

自転車 VR 教育が、大学生に向けた教育として最も適切であると考え、効果検証を行った。その際、効果を測るために従来のビデオ講習との比較を行った。

## 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

自転車 VR 検証実験を 7 月に本学で行い、比較として従来のビデオ講習検証実験も行った。



出所：独自アンケートより作成

2 つを比較したところ、VR は持続性があることがわかり(図 5)、体験者の声からも VR の方が大学生にとって望ましいことが明らかになった。検証実験を通して自転車 VR には、「ゲーム感覚になり、競争意識が出る」「違反箇所が分からない」「大人数で実施できない」という課題があることが示唆された。

そこで自転車 VR 教育方法を普及させるために、自転車通学可能な大学 76 校にアプローチをかけ、14 校に訪問し、「自転車 VR 教育を知らない」「実施方法が分からない」「大学で開催した実例がない」という意見を得られた。

さらに今回検証実験でコラボレーションしたパシフィックコンサルタンツ株式会社に以下の 5 点を提案した。

1. 違反内容を明らかにするリーフレット作成
2. 評価項目を法令違反トップ 5 に変更
3. ゴール制度を廃止
4. 映像を実際の道路にする
5. 事故の体感をつける

以上の 5 点の有効性の検証と大学での模擬開催をするため、自転車 VR 検証実験を 10 月に本学で行った。下記がその内容と概要である。

### ➤ 第 2 回自転車 VR 検証実験

検証内容…大学での模擬開催、提案内容の有効性について

協力…パシフィックコンサルタンツ株式会社、東京工業大学、株式会社タイダルウェイブ

日時…2018 年 10 月 31 日（水）12 時半から 18 時

場所…文京学院大学 仁愛ホール ホワイエ

参加者…大学生 100 名

## 6. 結果や今後の取り組み

第 2 回自転車 VR 検証実験では、自転車 VR 2 台を用いて、受付→事前アンケート→VR 体験→リーフレットに評価結果を記入→事後アンケートという流れで実施した。また 1 台につき、受付員 1 名インストラクター 1 名の計 2 名程度で、運営することができ、縦 5 メートル横 3 メートルの広さで自転車 VR を設置することができる。

さらにこの活動が朝日新聞 DIGITAL を始めとするメディア 31 社に掲載され、この教育の認知を広げることができた。

今回は提案 1 の「違反内容を明らかにするリーフレット作成」を実施し、リーフレットの感想として「改めて交通ルールを確認することができた」「違反している箇所が分かりやすく、見直しやすい」「点数が低かったため、気を付けて運転しようと思った」があり、効果があることが明らかになった。法令違反トップ 5 で既に評価項目に反映されていた信号が 90%、一時停止が 90%と体験者の意識変化があった。このことから提案 2 の「評価項目を法令違反トップ 5 に変更」は効果があると考えられる。体験者の声からも「ゴールがあるため、目的地が明確になる」「映像を実際の道路にしてほしい」「事故の体感や衝撃があればよい」ということが明らかになった。

検証結果として、以下の4点を再度パシフィックコンサルタンツ株式会社に提案する。

1. 違反内容を明らかにするリーフレット作成
2. 評価項目を法令違反トップ5に変更
3. 映像を実際の道路にする
4. 事故の体感をつける

今後の取り組みでは、以上の4点をパシフィックコンサルタンツ株式会社に提案し、他大学へさらにアプローチをかけ、自転車VR教育の普及活動を行う。さらに今回の検証実験を実施マニュアル化していく。そして学内では4月に設立する都市の社会問題を解決するための「まちづくり研究センター」に引継ぎを提案し、この活動を継続して行うことを目指している。

## 7. 参考文献

### 主要参考文献

- ・石田敏郎, 松浦常夫(2017)『交通教育心理学』星雲社
- ・広辞苑 (2018) 岩波書店
- ・日本経済新聞「自転車その乗り方違反！一繰り返すと講習義務、6月から、受講しないと罰金」 2015年4月14日
- ・自転車の交通ルールの徹底方策に関する懇談会(2012年)「自転車の交通ルールの徹底方策に関する提言」
- ・Eric Krokos(2016)「The Impact of VR on Academic Performance」
- ・中西盟(2014)「自転車シミュレーターを使用した交通安全教育について」
- ・日本交通政策研究会(2015)「交通社会の中の自転車教育のあり方」
- ・国土交通省 自転車の活用の推進に関する現状の取り組みについて (2017) <http://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/bicycle-up/01pdf/05.pdf>
- ・国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター「第3節 参加体験型学習に効果的の活用のための着眼点」  
<https://www.nier.go.jp/jissen/chosa/18sanka/sanka-7.pdf>
- ・一般財団法人自転車産業振興協会 平成27年度自転車の交通ルールに関する意識調査報告書 平成28年3月  
[www.jbpi.or.jp/report\\_pdf/2016\\_06.pdf](http://www.jbpi.or.jp/report_pdf/2016_06.pdf)
- ・警察庁交通局 平成29年中の交通事故の発生状況 平成30年2月15日  
<https://www.npa.go.jp/publications/statistics/koutsuu/H29zennjiko.pdf>

### <企画シート作成上の注意>

- ※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。
- ※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様(株式会社日経BPマーケティング)に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。
- ※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1〜7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡します。
- ※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HPなどに発表されていない)ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経BP社・株式会社日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。
- ※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。
- ※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。
- ※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。
- ※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ **ここまでを4ページ以内におさめて、ご提出ください**